教員組織および研究指導分野

獣医学専攻　博士課程(Veterinary Medicine, Doctoral Course)

専門分野		研究指導分野	指導教員氏名	研　　究　　内　　容
基礎獣医学	生体機能学	獣医解剖学	准教授　植田　弘美	１）複合糖質の組織化学的研究 ２）漢方薬の治癒機序の形態学的解明
			准教授　渡邉　敬文	１）３次元電子顕微鏡を用いた超微細構造の解析 ２）酸化ストレスによるミトコンドリアの形態変化 ３）運動器系の結合組織に関する研究
		獣医生理学	教　授　北村　　浩	ミエロイド系細胞で発現している機能未知分子の炎症反応における役割や、エネルギー代謝制御における役割を解明するとともに、これら分子の機能に影響する食素材を探索する。
			准教授　林　　英明	１）反芻動物における栄養素輸送体機能の解明 ２）反芻動物の成長に伴う代謝機構の変化に関する研究
		獣医栄養生理学	教　授　翁長　武紀	１）消化管運動の調節機序に関する研究 ２）消化管ペプチドの刺激分泌連関に関する比較内分泌学的研究 ３）消化管における代謝酵素の種差に関する栄養生理学的研究
		獣医生化学	教　授　岩野　英知	１）環境ホルモンの次世代影響機序の解明 ２）イヌ乳腺腫瘍の早期診断および予後診断の開発 ３）病原細菌に対するファージセラピーの応用研究
		獣医薬理学	教　授　北澤多喜雄	１）ペプチドホルモン（モチリン、グレリン）による消化管運動の制御に関する比較生物学的解析 ２）各種内臓平滑筋及び心房筋に発現するムスカリン受容体種とその機能解析 ３）結腸運動、排便を制御する因子の解明
			教　授　寺岡　宏樹	１）小型の熱帯魚を用いた環境汚染物質の作用機構解明 ２）タンチョウの保全科学（環境汚染、遺伝背景） ３）伴侶動物の臨床薬理
		獣医放射線生物学	教　授　遠藤　大二	１）光子 および 電子輸送シミュレーターによる動物体内放射線 被ばく線量の予測 ２）人工知能(AI)を用いた塩基配列関係に基づく識別検出用PCRプライマーの設計 ３）人工知能(AI)を用いた 獣医診療文書に基づく臨床診断支援システムの開発
			講　師　華園　　究	１）スパースモデリングを用いたMRI撮像の高速化と臨床応用 ２）ドプラ法および造影超音波検査を用いた犬猫の腎機能解析 ３）超音波検査、MRI検査を用いた右房機能解析
医学	感染・病理学	獣医病理学	教授　松田　一哉	動物の自然発生疾患に関する病理学的研究、病理解剖学的ならびに組織学的診断
			准教授　岡本　　実	１）家畜病理学(自然発生疾患に対する病理形態学的および分子病理学的研究) ２）動物園、水族館、野生動生物の自然発生疾患に対する病理形態学的および分子病理学的研究
		医動物学	教　授　浅川　満彦	野生および動物園動物特用家畜・エキゾチックペット動物などの寄生虫症の臨床および疫学、寄生虫学を指標にした野生動物の生態、保全医学教育基盤構築
		獣医ウイルス学	教　授　桐澤　力雄	１）ウマヘルペスウイルス１型の病原性と免疫原性に関する研究 ２）動物のウイルス性疾患の疫学的研究 ３）免疫療法に関する研究
			教　授　萩原　克郎	１）家畜・野生動物における感染症の疫学と予防・治療研究 ２）ウシの免疫機能に関する研究 ３）腫瘍免疫に関する研究
		獣医細菌学	教　授　内田　郁夫	１）細菌感染症における発病機構の解明と予防・治療法の開発 ２）動物由来サルモネラの分子疫学的解析と病原因子に関する研究
		実験動物学	教　授　大杉　剛生	発生工学的手法および免疫不全マウスを用い、治療・予防法の確立していない疾病の疾患モデル動物の作製を行っています。

注）掲載内容は2020年10月現在です。担当教員・研究内容につきましては変更する場合があります。
注）下線のある教員は副指導資格者。出願希望者は事前に研究科長にご相談ください。
*The underlined teacher is a deputy qualified person.
*If you wish to apply, please contact the Dean of the Graduate School in advance.

専門分野		研究指導分野	指導教員氏名	研　　究　　内　　容
臨床獣医学	生産動物医療学	生産動物内科学Ⅰ	教　授　田島　誉士	1）牛ウイルス性下痢ウイルス感染症の疫学的研究 2）生産獣医療におけるウイルス感染症対策に関する研究 3）感染性因子が家畜の生産性に及ぼす影響
			准教授　大塚　浩通	1）周産期における乳牛の免疫機能に関する研究 2）子牛の免疫システムの成熟に関する研究 3）牛の免疫機能の調整に関する研究
		生産動物内科学Ⅱ	―	―
		生産動物外科学	教　授　鈴木　一由	1）大動物における静脈内輸液・栄養輸液管理に関する臨床研究 2）牛の炎症性疾患に関する病態生理学的研究 3）エンドトキシンショックに関する病態生理および臨床薬理学的研究
		動物生殖学	―	―
	伴侶動物医療学	伴侶動物内科学	准教授　大田　　寛	1）犬の炎症性腸疾患の病態解析 2）犬の消化器型リンパ腫の病態解析 3）伴侶動物の消化器疾患の診断における超音波検査の有用性
		獣医眼科学	准教授　前原　誠也	1）動物の視覚電気生理学的検査に関する研究 2）動物の眼疾患に関する基礎的・臨床的研究
		動物疾病治療学	教　授　嶋本　良則	1）小動物の腫瘍性あるいは内分泌疾患における診断・治療に関する研究 2）動物看護に関する研究
		運動器･神経病治療学	教　授　上野　博史	1）神経病に対する診断および治療法に関する研究 2）難治性創傷の治療法に関する基礎的研究
		獣医臨床腫瘍学	―	―
		画像診断学	教　授　中出　哲也	伴侶動物の画像診断（X線、超音波、CT、MRI）とインターベンショナルラジオロジー（IVR）に関する研究
		獣医麻酔学	教　授　山下　和人	1）犬猫における麻酔疼痛管理・周術期栄養管理に関する研究 2）犬猫の集中治療に関する研究。新しい馬の全静脈麻酔法の開発 3）馬の敗血症治療に関する研究
		動物集中管理学	准教授　佐野　忠士	1）犬猫における麻酔疼痛管理・周術期栄養管理に関する研究 2）犬猫の周術期疼痛管理が術後回復にもたらす影響に関する研究
		循環器病学	准教授　井坂　光宏	循環器系を中心とした臓器間の相互作用「臓器円環」の研究
		獣医臨床病理学	准教授　玉本　隆司	1）犬と猫の新規炎症マーカーの樹立 2）犬の自己免疫疾患の新規診断マーカーの探索
		動物理学療法学	―	―
応用獣医学	衛生環境学	獣医衛生学	教　授　樋口　豪紀	ウシ乳腺免疫機構に関する基礎的研究・ウシ蹄病の病態解析と蹄病防除への応用に関する研究
		獣医疫学	教　授　蒔田　浩平	日本および発展途上国における家畜および人獣共通感染症の疫学研究、輸出入および食品衛生リスク分析、感染症モデリング、学際的分野のワンヘルスアプローチ
		食品衛生学	准教授　臼井　　優	1）動物、環境および食品由来薬剤耐性菌の疫学研究 2）薬剤耐性菌対策（診断法開発を含む）に関する研究
		環境衛生学	准教授　能田　　淳	重金属などの環境中汚染物質の現状把握と曝露メカニズムに関する研究。
		人と動物の関係学	准教授　郡山　尚紀	1）野生大型類人猿とヒトの共通感染症に関する研究 2）海棲哺乳類の生態と人間活動の関係に関する研究 3）動物介在介入における動物の生体反応に関する研究
		人獣共通感染症学	教　授　村松　康和	Q熱コクシエラやリケッチアなど、人獣共通感染症原因細菌を対象とした国内及び海外における疫学調査
			講　師　内田　玲麻	1）蚊媒介性フラビウイルスの疫学および媒介能に関する研究 2）野生動物におけるマダニ媒介性ウイルスに関する研究
		ハードヘルス学	教　授　及川　　伸	1）牛の代謝性疾患の制御に関する研究 2）牛の生産病と飼養環境に関する研究 3）酪農における生産関連データの有効活用システムの研究
			講　師　福森　理加	1）乳牛の栄養生理学にもとづく飼養管理の実践 2）代謝ホルモンの分泌・作用の解明 3）周産期管理
		獣医倫理学	准教授　高橋　優子	1）獣医療倫理理論 2）バーナード・ローリンの思想

専門分野		研究指導分野	指導教員氏名	研　　究　　内　　容
				3）比較獣医倫理思想

注）掲載内容は2020年10月現在です。担当教員・研究内容につきましては変更する場合があります。
注）下線のある教員は副指導資格者。出願希望者は事前に研究科長にご相談ください。
*The underlined teacher is a deputy qualified person.
*If you wish to apply, please contact the Dean of the Graduate School in advance.

教員組織および研究指導分野

獣医保健看護学専攻　修士課程(Veterinary Science, Master's Course)

専門分野	研究指導分野	指導教員氏名	研究内容
基礎・応用獣医保健看護学	獣医解剖学	准教授　渡邉　敬文	1）３次元電子顕微鏡を用いた超微細構造の解析 2）酸化ストレスによるミトコンドリアの形態変化 3）運動器系の結合組織に関する研究
	獣医生化学	教授　岩野　英知	1）環境ホルモンの次世代影響機序の解明 2）イヌ乳腺腫瘍の早期診断おおび予後診断の開発 3）病原細菌に対するファージセラピーの応用研究
	動物薬理学	教　授　北澤多喜雄	1）ペプチドホルモン（モチリン、グレリン）による消化管運動の制御に関する比較生物学的解析 2）各種内臓平滑筋及び心房筋に発現するムスカリン受容体種とその機能解析 3）結腸運動、排便を制御する因子の解明
	獣医病理学	准教授　松田　一哉	動物の自然発生疾患に関する病理学的研究、病理解剖学的ならびに組織学的診断
	医動物学	教　授　浅川　満彦	野生および動物園動物特用家畜・エキゾチックペット動物などの寄生虫症の臨床および疫学、寄生虫学を指標にした野生動物の生態、保全医学教育基盤構築
	獣医ウイルス学	教　授　桐澤　力雄	1）ウマヘルペスウイルス１型の病原性と免疫原性に関する研究 2）動物のウイルス性疾患の疫学的研究 3）免疫療法に関する研究
	公衆衛生学	准教授　臼井　　優	1）動物、環境および食品由来薬剤耐性菌の疫学研究 2）薬剤耐性菌対策（診断法開発を含む）に関する研究
臨床獣医保健看護学	獣医衛生学	教　授　樋口　豪紀	ウシ乳腺免疫機構に関する基礎的研究・ウシ蹄病の病態解析と蹄病防除への応用に関する研究
	生産獣医療学	教　授　田島　誉士	牛群管理における感染症対策の重要性と疾病コントロール
	臨床疾病治療学	教　授　鈴木　一由	1）各種動物における炎症性疾患に関する病態生理学的研究 2）エンドトキシンショックに関する病態生理および臨床薬理学的研究 3）各種動物における静脈内輸液・栄養輸液管理に関する臨床研究
		教　授　嶋本　良則	1）動物の炎症、腫瘍および内分泌疾患における診断・治療に関する研究 2）動物看護に関する研究
	獣医麻酔学	教　授　山下　和人	1）犬猫における麻酔疼痛管理・周術期栄養管理に関する研究。 2）犬猫の集中治療に関する研究。新しい馬の全静脈麻酔法の開発。馬の敗血症治療に関する研究。
	画像診断学	教　授　中出　哲也	画像診断とインターベンショナルラジオロジー
	動物理学療法学	―	―
	動物行動学	准教授　佐野　忠士	1）イヌ・ネコにおける麻酔疼痛管理・周術期栄養管理に関する研究 2）イヌ・ネコの周術期疼痛管理が術後回復にもたらす影響に関する研究
		准教授　郡山　尚紀	1）伴侶動物の行動と問題行動治療に関する研究 2）野生動物の行動および生態と人と動物の共生に関する研究

注）掲載内容は2020年10月現在です。担当教員・研究内容につきましては変更する場合があります。
注）下線のある教員は副指導資格者。出願希望者は事前に研究科長にご相談ください。
*The underlined teacher is a deputy qualified person.
*If you wish to apply, please contact the Dean of the Graduate School in advance.

教員組織および研究指導分野

酪農学専攻 修士課程（Dairy Science, Master’s Course）

専門分野（専攻部門）	研究指導分野（専攻学科目）	指導・担当教員氏名	研究内容
作物生産科学	土壌植物栄養学	教　授　澤本　卓治	土壌を中心とした物質循環を研究対象としている。具体的には、土壌やふん尿処理過程から発生する温室効果ガスの動態や、土壌中の養分の挙動について研究を実施している。
		准教授　小八重善裕	圃場における物質循環を作物栄養学の視点でとらえ栽培に生かす研究を行う。特に菌根などの共生システムを分子生物学的手法を用いて理解する。
	病理・害虫学	教　授　園田　高広	アスパラガスの病害抵抗性育種に関する研究およびトマトのエンドファイト（共生菌）を使った栽培法の試験。
		准教授　薦田　優香	農作物や牧草などに感染するウイルスを主な研究対象とする。生化学的および分子生物学的手法を用いて、植物とウイルスとの相互作用やウイルス感染・増殖機構の解明を目指す。
		准教授　岡本　英童	土壌や堆きゅう肥の農畜産環境や水圏、大気などあらゆる環境の複合微生物群集を解析し、微生物生態を明らかにする研究を行っている。
		准教授　中平　賢吾	持続可能な農業害虫の防除体系の確立を目指して、害虫と天敵の生活史や行動などの基礎生態の解明や、農業現場における害虫の発生メカニズムの解明、天敵昆虫の利用法の開発などに関する研究を行っている。
	飼料作物学	教　授　義平　大樹	飼料作物（トウモロコシ、牧草、麦類）と食用作物（麦類、豆類）における多収と高品質を両立できる栽培技術の確立と、その乾物生産過程からみた要因解明について研究する。
		教　授　三枝　俊哉	寒地における資源循環型の持続的な草地管理および粗飼料生産技術の確立を目指す。 １）主要草種の生育特性解明 ２）草地の草種構成制御 ３）草地飼料畑の養分動態解明に取り組む
	植物遺伝学	教　授　我妻　尚広	圃場での雑草や生態系での野生植物の営みを分子生物学的な手法で明らかにし、それらの雑草や野生植物集団の遺伝構造を推測し、伝来や拡散過程を研究する。
		准教授　岡本　吉弘	自殖性作物、特にイネの半数体育種法における諸問題に取組む。 １）葯培養効率の技術改善 ２）葯培養法以外の半数体育種法の確立 ３）葯培養効率の遺伝子マッピング ４）ＤＨＬｓやＲＩＬｓなどのイネ実験系統群の作出。 これらの研究には、栽培種のジャポニカに限らずインディカや、野生種を利用する。
		准教授　森　志郎	園芸植物、特に花き園芸植物を対象として組織培養による優良個体の増殖や植物バイオテクノロジー（胚救出や染色体倍加など）を利用した育種に取り組む。
	酪農機械学	教　授　小宮　道士	研究内容は、効率的な給餌のための自動化に関する研究、バイオディーゼル燃料の製造と物性および燃焼特性の解明、酪農場におけるエネルギー利用の実態と改善などである。
家畜生産科学	家畜繁殖学	教　授　堂地　修	１）ウシ胚の効率的な生産方法の開発 ２）ウシ卵子および胚の超低温保存技術の開発 ３）胚移植の受胎率向上と有効利用 ４）高泌乳牛の繁殖生理の特性 ５）牛の繁殖管理技術の向上
		教　授　今井　敬	１）ウシ体外受精胚における発生率向上および受胎性評価技術に関する研究 ２）ウシ雌雄産み分け技術の高率化に関する研究 ３）家畜胚の新しい生産技術の開発に関する研究
		教　授　菅野美樹夫	１）疾病予防を目的とした農場の衛生管理に関する調査・研究 ２）ブタの放牧に対するストレスとの関係に関する研究 ３）生産性を目的としたブタの効率的な繁殖管理に関する研究
		准教授　森好　政晴	１）生殖工学技術による不妊症牛の治療法の開発に関する研究 ２）生産動物の繁殖管理における内分泌検査の利用に関する研究

注）掲載内容は2020年10月現在です。担当教員・研究内容につきましては変更する場合があります。
注）下線のある教員は副指導資格者。出願希望者は事前に研究科長にご相談ください。
*The underlined teacher is a deputy qualified person.
*If you wish to apply, please contact the Dean of the Graduate School in advance.

専門分野 (専攻部門)	研究指導分野 (専攻学科目)	指導・担当教員氏名	研　　究　　内　　容
家畜生産科学	遺伝・育種学	教　授　佐藤　元昭	遺伝の基本となる配偶子形成過程や胚発生過程において、細胞分化および細胞分裂機構等について、主に昆虫を材料として細胞形態学的に各種顕微鏡法を用いた解析を行っている。
		教　授　寺脇　良悟	ホルスタイン乳牛の生産寿命に関する統計育種学的分析を行い、遺伝評価方法と改良戦略を検討している。生存時間解析の家畜育種分野への応用を研究している。
		准教授　天野　朋子	1）家畜における乳と肉の生産に関わる遺伝子の研究 2）家禽における卵と肉の生産に関わる遺伝子の研究 3）家畜と家禽の適切な管理に関わる抗病性や繁殖能力、気質などの形質を制御する遺伝子の研究
	家畜栄養学	教　授　中辻　浩喜	土地利用型乳肉生産システムを土―草―家畜を巡る物質循環として捉え、飼料のエネルギー利用効率および単位土地面積当たりの家畜生産量の観点から総合的に評価する。
		教　授　高橋　俊彦	畜産現場に於ける家畜・農場・地域の衛生管理と感染症対策。哺育・育成期の細菌、ウイルス、消化管内線虫等の防除対策や、牛と野生動物間の感染症に関する調査研究。
		教　授　泉　　賢一	乳牛の第一胃内栄養生理と採食量、乳生産の関係。乳牛群の栄養管理およびその評価方法に関する研究。
		教　授　加藤　敏英	1）家畜の感染症治療と予防に関する研究（特に牛呼吸器感染症に対する抗菌剤治療） 2）牛臨床における薬剤耐性菌対策 3）乳牛の乾乳期分娩前の乳汁性状と乳房炎の関係について
		准教授　山田　未知	豚や鶏におけるエコフィードの活用法や給与飼料が十分活用されるような飼養環境の改善について研究を行う。また、養豚においては効率的な子豚生産のために、その繁殖性改善のための研究も併せて行う。
	家畜管理学	教　授　森田　　茂	家畜の動作・活動（採食行動、休息行動、人に対する反応）を解析するとともに、家畜の社会行動から家畜同士の関係を把握することで、家畜の習性に配慮し、洗練化された飼養管 理技術の構築を目指す。
		教　授　山田　弘司	人と動物の関係学の研究として、アニマルセラピーや乗馬療 法の効果、人とペットの関係調査、動物のストレス反応や性 格・気質測定、動物園動物の展示と行動調査を行っている。
		准教授　猫本　健司	ふん尿の循環利用・窒素収支に関する研究、搾乳関連排水の低コスト処理、温室効果ガスの発生実態などを検討している。今後は「実践」にふさわしい新たなテーマも取り組む。
		准教授　能田　　淳	様々な気候風土に適した家畜管理を行うために、異なる飼育環境の状況把握を行う。環境衛生の立場から、人、家畜、自然環境の相互関係に配慮した家畜管理の構築を行う。
	酪農生物化学	教　授　小澤　修二	農業・家畜生産に関わる天然有機化合物を化学的立場から解明し、それらの応用、利用を図る。特に植物二次代謝産物の機能に着目した低・未利用有機物資源の有効化を検討する。
酪農情報学	酪農経営情報学	※　　未定	
	農業経営学	教　授　吉野　宣彦	1）酪農経営分析支援プログラムを開発し、酪農地帯３農協の経営改善をサポートするシステム構築 2）豊浦町における「生薬の里」づくりによる地域振興に係る調査研究 3）別海町における酪農環境保全体制の確立に係る調査研究
		准教授　吉岡　　徹	農業経営における、経営戦略の立案と実践方法について 地域営農システムの展開条件と方向性に関する研究 農業支援システムの成立要件と発展方向に関する研究
	酪農政策学	教　授　井上　誠司	地域農業のシステム化、ならびに地域農業振興計画の有効性に関する研究を行っている。
		教　授　小糸健太郎	酪農の生産性に関する研究、農家の技術選択に関する研究、食品廃棄物・副産物利用の現状とその利用に関する研究を行っている。
	農業市場学	教　授　相原　晴伴	米・青果物・牛乳・食肉・畑作物などの農畜産物・食料の販売・流通・需給、産地による有利販売のための戦略を研究している。

注）掲載内容は2020年10月現在です。担当教員・研究内容につきましては変更する場合があります。
注）下線のある教員は副指導資格者。出願希望者は事前に研究科長にご相談ください。
*The underlined teacher is a deputy qualified person.
*If you wish to apply, please contact the Dean of the Graduate School in advance.

専門分野 (専攻部門)	研究指導分野 (専攻学科目)	指導・担当教員氏名	研　　究　　内　　容
環境共生学	野生動物学	教　授　佐藤 喜和	北海道を代表する野生動物であるヒグマを中心に、その生態を理解し、人間との軋轢を最小化するため、野外調査から室内実験、データ解析まで様々な手法を用いた研究を行う。
		准教授 伊吾田宏正	野生動物管理の重要な要素である狩猟について、その生態学的・社会的役割を追求するため、狩猟に関する動向や意識、狩猟鳥獣の生態および効率的捕獲手法等を研究する。
		准教授　鈴木　透	野生動物・生物多様性と人間社会との共生を図るために、保全生物学・景観生態学的なアプローチを用いた基礎的・応用的な研究を行っている。
		准教授　森　さやか	野生動物の生態や行動、進化についての基礎的な研究を基盤としつつ、保全に関わる応用的研究にも取り組む。野外調査を重視するが、GIS 解析、DNA 解析などの手法も用いて研究を行っている。主要な研究対象は、野生鳥類。
		准教授　立木　靖之	地域の生物多様性と社会の境界線上に生じる軋轢の解決を目的に、国内外のフィールド調査で収集された「事実」に基づき、両者にとっての利益を見出し、共存する方法を探求する。
		准教授　原村　隆司	野生動物の行動や生態に関する研究を行なっている。研究対象とする生物は、主として両生類または昆虫類の各種で、基礎的研究に重点をおいて調査を行なっている。
	国際環境情報学	教　授　金子　正美	GIS（地理情報システム）及びリモートセンシング技術を用いて環境の現状と変化を空間的に解析し、それを活かしたアジアと地域の環境政策立案、環境管理手法の研究を行う。
		教　授　押谷　一	自然環境と共生するための社会システム（人々の意識や行動、法制度・規制や経済的手法など）のあり方について検討する。
		教　授　星野　仏方	主にアジアの生態・環境となりわいの長期変動のモニタリングと解析と研究を行なっている。
		准教授　小川　健太	衛星、航空機、無人機からの計測（＝リモートセンシング）、 GIS、GPS等を用いた森林や農地のモニタリング、気候変動の予測、環境政策の立案等への情報活用に関する研究
	地球環境保全学	教　授　遠井　朗子	環境条約の実効性を日本について、国内法における環境条約の受容の程度を実証し、評価することにより検討している。特に生物多様性・自然保護関連条約に焦点を当てている。
		教　授　保原　達	陸上生態系内の現象に潜む、目に見えない仕組みや原因などについて、生物と環境双方の共通項である『物質』を頼りに分析・解明している。
		教　授　中谷　暢丈	環境中における生元素や有害物質の生物地球化学的循環過程の解明とその人的相互作用の評価、生物学的・化学的手法を用いた環境評価手法の開発に関する研究を展開する。
		教　授　吉田　磨	１）地球温暖化に関する国内外フィールド観測と国際精度分析 ２）生物地球化学的物質循環と地球環境変化の解析 ３）フィールド観測を用いた持続可能な農業・漁業・観光業創造
		准教授　馬場　賢治	大気・海洋学を中心して、それらに関係する様々な分野の研究を行っている。現場観測による統計解析や気象モデル解析を利用して、現実と理論の双方から場の理解を行う。
		准教授　松山　周平	自然植生や希少植物の保全・管理に関する問題に取り組みながら、その問題の中にある植物の生態や進化に関する研究を行っている。

注）掲載内容は2020年10月現在です。担当教員・研究内容につきましては変更する場合があります。
注）下線のある教員は副指導資格者。出願希望者は事前に研究科長にご相談ください。
*The underlined teacher is a deputy qualified person.
*If you wish to apply, please contact the Dean of the Graduate School in advance.

フードシステム専攻 修士課程（Food Systems, Master’s Course）

専門分野 （専攻部門）	研究指導分野 （専攻学科目）	指導・担当教員氏名	研究内容
食資源利用システム	農・畜産食品学	教授 樋元 淳一	農産物、主として青果物の収穫以降の貯蔵、選別、輸送、包装、加工などの様々な過程における品質の維持向上に関する、施設、資材、機械、技術に関する研究を行っている。
食料政策システム	食料政策論	教授 佐藤 和夫	食品安全性に関する消費者の意識・行動に関する計量経済分析。
	食品流通論	教授 尾碕 亨	食料品の流通問題、市場問題にアプローチするための理論を修得する。また食品流通問題の課題を把握し、食品流通論に関わるこれまでの研究の到達点を明らかにする。
		教授 柳 京熙	食と流通の関連を生産段階から消費段階に至るまで社会経済的側面から分析し、食の供給体系の適切なあり方について提言を行っている。
経営管理システム	経営管理論	教授 阿部 茂	市場対応重視のマーケティング戦略について、技術経営プログラムの視点から検証を行う。独自技術を有する食品製造メーカー及び食品機械メーカーを実証研究する。
	食品情報システム論	准教授 三谷 光照	ＩＴの利用による適切な食品の配分、流通コストの低減、安全性の確保のために、通信ネットワーク技術の応用、効率的な流通支援、情報システムのあり方について研究する。

注）掲載内容は2020年10月現在です。担当教員・研究内容につきましては変更する場合があります。
注）下線のある教員は副指導資格者。出願希望者は事前に研究科長にご相談ください。
*The underlined teacher is a deputy qualified person.
*If you wish to apply, please contact the Dean of the Graduate School in advance.

食生産利用科学専攻 博士課程
(Food Production and Utility Development, Doctoral Course)

研究指導分野 (専攻学科目)	指導・担当教員氏名	研　　究　　内　　容
植物資源生産学	教　授　園田　高広	アスパラガスの病害抵抗性育種に関する研究およびトマトのエンドファイト（共生菌）を使った栽培法の試験。
	准教授　薦田　優香	農作物や牧草などに感染するウイルスを主な研究対象とする。生化学的および分子生物学的手法を用いて、植物とウイルスとの相互作用やウイルス感染・増殖機構の解明を目指す。
	教　授　義平　大樹	飼料作物（トウモロコシ、牧草、麦類）と食用作物（麦類、豆類）における多収と高品質を両立できる栽培技術の確立と、その乾物生産過程からみた要因解明について研究する。
	教　授　我妻　尚広	圃場での雑草や生態系での野生植物の営みを分子生物学的な手法で明らかにし、それらの雑草や野生植物を生態遺伝学的視点に立って適切に利用管理する方法を研究する。
	准教授　小八重善裕	圃場における物質循環を作物栄養学の視点でとらえ栽培に生かす研究を行う。特に菌根などの共生システムを分子生物学的手法を用いて理解する。
	教　授　星野　仏方	アフロ・ユーラシア地区における一次性生産力の変化の把握、及び家畜・ 野生動物の植物資源利用の解析と研究を行う。
	教　授　三枝　俊哉	寒地における資源循環型の持続的な草地管理および粗飼料生産技術の確立を目指す。 １）主要草種の生育特性解明 ２）草地の草種構成制御 ３）草地飼料畑の養分動態解明に取り組む
	教　授　澤本　卓治	土壌を中心とした物質循環を研究対象としている。具体的には、土壌やふん尿処理過程から発生する温室効果ガスの動態や、土壌中の養分の挙動について研究を実施している。
	教　授　保原　　達	陸上生態系内の現象に潜む、目に見えない仕組みや原因などについて、生物と環境双方の共通項である『物質』を頼りに分析・解明している。
動物資源生産学	教　授　小宮　道士	研究内容は、効率的な給餌のための自動化に関する研究、バイオディーゼル燃料の製造と物性および燃焼特性の解明、酪農場におけるエネルギー利用の実態と改善などである。
	教　授　堂地　　修	１）ウシ胚の効率的な生産方法の開発 ２）ウシ卵子および胚の超低温保存技術の開発 ３）胚移植の受胎率向上と有効利用 ４）高泌乳牛の繁殖生理の特性 ５）牛の繁殖管理技術の向上
	教　授　寺脇　良悟	ホルスタイン乳牛の生産寿命に関する統計育種学的分析を行い、遺伝評価方法と改良戦略を検討している。生存時間解析の家畜育種分野への応用を研究している。
	教　授　中辻　浩喜	土地利用型乳肉生産システムを土―草―家畜を巡る物質循環として捉え、家畜生産性および土地生産性に及ぼす要因の解明と土地利用方式まで含めた生産システムの構築を目指す。
	教　授　森田　　茂	家畜の動作・活動（採食行動、休息行動、人に対する反応）を解析するとともに、家畜の社会行動から家畜同士の関係を把握することで、家畜の習性に配慮し、洗練化された飼養管理技術の構築を目指す。
	教　授　今井　　敬	１）ウシ体外受精胚における発生率向上および受胎性評価技術に関する研究 ２）ウシ雌雄産み分け技術の高率化に関する研究 ３）家畜胚の新しい生産技術の開発に関する研究
	教　授　髙橋　俊彦	畜産現場に於ける家畜・農場・地域の衛生管理と感染症対策、哺育・育成期の細菌、ウイルス、消化管内線虫等の防除対策や牛と野生動物間の感染症に関する調査研究。
	教　授　佐藤　喜和	北海道を代表する野生動物であるヒグマを中心に、その生態を理解し、人間との軋轢を最小化するため、野外調査から室内実験、データ解析まで様々な手法を用いた研究を行う。
	教　授　中谷　暢丈	環境中における生元素や有害物質の生物地球化学的循環過程の解明とその人的相互作用の評価、生物学的・化学的手法を用いた環境評価手法の開発に関する研究を展開する。
	教　授　加藤　敏英	１）家畜の感染症治療と予防に関する研究（特に牛呼吸器感染症に対する抗菌剤治療） ２）牛臨床における薬剤耐性菌対策 ３）乳牛の乾乳期分娩前の乳汁性状と乳房炎の関係について
	教　授　山田　弘司	人と動物の関係学の研究として、アニマルセラピーや乗馬療法の効果、人とペットの関係調査、動物のストレス反応や性格・気質測定、動物園動物の展示と行動調査を行っている。

注）掲載内容は2020年10月現在です。担当教員・研究内容につきましては変更する場合があります。
注）下線のある教員は副指導資格者。出願希望者は事前に研究科長にご相談ください。
*The underlined teacher is a deputy qualified person.
*If you wish to apply, please contact the Dean of the Graduate School in advance.

研究指導分野 (専攻学科目)	指導・担当教員氏名	研　　究　　内　　容
動物資源生産学	教　授　吉田　　磨	1）地球温暖化に関する国内外フィールド観測と国際精度分析 2）生物地球化学的物質循環と地球環境変化の解析 3）フィールド観測を用いた持続可能な農業・漁業・観光業創造
	教　授　菅野美樹夫	1）疾病予防を目的とした農場の衛生管理に関する調査・研究 2）ブタの放牧に対するストレスとの関係に関する研究 3）生産性を目的としたブタの効率的な繁殖管理に関する研究
	准教授　天野　朋子	1）家畜における乳と肉の生産に関わる遺伝子の研究 2）家禽における卵と肉の生産に関わる遺伝子の研究 3）家畜と家禽の適切な管理に関わる抗病性や繁殖能力、気質などの形質を制御する遺伝子の研究
	准教授　山田　未知	豚や鶏におけるエコフィードの活用法や給与飼料が十分活用されるような飼養環境の改善について研究を行う。また、養豚においては効率的な子豚生産のために、その繁殖性改善のための研究も併せて行う。
	准教授　小川　健太	衛星、航空機、無人機からの計測（＝リモートセンシング）、GIS、GPS等を用いた森林や農地のモニタリング、気候変動の予測、環境政策の立案等への情報活用に関する研究
	准教授　原村　隆司	野生動物の行動や生態に関する研究を行っている。研究対象とする生物は、主として両生類または昆虫類の各種で、基礎的研究に重点をおいて調査を行っている。
	准教授　森好　政晴	1）生殖工学技術による不妊症牛の治療法の開発に関する研究 2）生産動物の繁殖管理における内分泌検査の利用に関する研究
食資源開発利用学	教　授　阿部　　茂	食品に新たな価値や機能性を付与する、又は生産性を向上する食品加工技 術の研究を行うとともに、技術の汎用性拡大を目的としたマーケティング調査を行う。
	教　授　小澤　修二	農業・家畜生産に関わる天然有機化合物を化学的立場から解明し、それらの応用、利用を図る。特に植物二次代謝産物の機能に着目した低・未利用有機物資源の有効化を検討する。
	教　授　樋元　淳一	農産物、主として青果物の収穫以降の貯蔵、選別、輸送、包装、加工などの様々な過程における品質の維持向上に関する、施設、資材、機械、技術に関する研究を行っている。
	教　授　竹田　保之	発酵乳製品の成分変化、加工特性、生体に及ぼす影響などをその製造に関係する乳酸菌の生態および機能性から詳細に解析し、乳製品や乳酸菌の付加価値向上に取り組む。
	教　授　小野寺秀一	1）糖転移酵素を用いた機能性オリゴ糖の創製に関する研究 2）オリゴ糖関連酵素の遺伝子工学的研究 3）新規機能性食品成分の検索とそれらが生体に及ぼす影響
応用微生物学	教　授　金田　　勇	食品をソフトマターとして捉え、主にレオロジー的手法を用いてその物理化学的特性に関する研究を行う。研究対象はハイドロゲルや濃厚コロイド分散体である。
利用微生物学	教　授　山口　昭弘	1）食品微生物と培養細胞を用いた生体相互作用解析系の構築 2）マクロファージを中心とした免疫賦活、抗炎症作用の向上をもたらす機能性食品に関する研究
農業経営政策学	教　授　尾碕　　亨	食品流通の経営管理、主に青果物物流の経営管理に関し、既存研究の到達点を踏まえた課題設定と経済学理論に基づいた実証研究により、課題の構造論的解明の研究を行っている。
	教　授　井上　誠司	地域農業のシステム化、ならびに地域農業振興計画の有効性に関する研究を行っている。
	教　授　吉野　宣彦	1）酪農経営分析支援プログラムを開発し、酪農地帯３農協の経営改善をサポートするシステム構築 2）豊浦町における「生薬の里」づくりによる地域振興に係る調査研究 3）別海町における酪農環境保全体制の確立に係る調査研究
	教　授　小糸健太郎	酪農の生産性に関する研究、農家の技術選択に関する研究、食品廃棄物・副産物利用の現状とその利用に関する研究を行っている。
食料経済学	教　授　柳　　京熙	食と流通の関連を生産段階から消費段階に至るまで社会経済的側面から分析し、食の供給体系の適切なあり方について提言を行っている。

注）掲載内容は2020年10月現在です。担当教員・研究内容につきましては変更する場合があります。
注）下線のある教員は副指導資格者。出願希望者は事前に研究科長にご相談ください。
*The underlined teacher is a deputy qualified person.
*If you wish to apply, please contact the Dean of the Graduate School in advance.

食品栄養科学専攻 修士課程
(Food and Nutrition Science, Master's Course)

専門分野	研究指導分野 (専攻学科目)	指導・担当教員氏名	研究内容
加工特性	食品加工特性学	教授 竹田 保之	発酵乳やチーズを対象とし、それらの製造方法と品質特性の関係ならびに関係する乳酸菌の生態や機能性に関して生化学的、微生物学的および分子生物学的手法を用いて解析する。
		教授 舩津 保浩	低利用水畜産資源の有効活用を目的として麹や好塩性乳酸菌等を用いた発酵食品を開発し、その発酵工程で起こる化学成分や呈味成分等の変化と最終製品の品質について調査する。
		講師 前田 尚之	加熱食肉製品の製造工程における加工特性に影響する物質の解析を行う。また品質特性に及ぼす筋肉タンパク質や低分子化合物の変化を分析する。
		講師 栃原 孝志	特定の乳酸菌が産生する粘質物に含まれる菌体外多糖の物理化学的特性、機能性、および食品製造への応用性の解析を行う。
	食品物性学	教授 金田 勇	食品をソフトマターとして捉え、主にレオロジー的手法を用いて、その物理化学的特性に関する研究を行う。研究対象はハイドロゲルおよび濃厚コロイド分散体である。
栄養機能	食品栄養機能化学	教授 小野寺秀一	1）糖転移酵素を用いた機能性オリゴ糖の創製に関する研究 2）オリゴ糖関連酵素の遺伝子工学的研究 3）新規機能性食品成分の検索とそれらが生体に及ぼす影響
		准教授 上野 敬司	1）オリゴ糖の生体調節機能に関する研究 2））糖質関連酵素を用いたオリゴ糖生産に関する研究 3）糖質関連酵素の探索及び機能改変に関する研究
	食品機能生化学	教授 岩﨑 智仁	種々の食品成分が有する機能性について、マウス、ラットならびに畜産動物を用いた骨格筋の可塑性や筋肉タンパク質代謝のシグナル伝達を指標に、分子生物学、生化学および形態学的手法によって評価解析する。
健康栄養	健康栄養学	教授 大谷 克城	1）食素材の抗酸化機能に関する基礎研究と新規機能性食品の開発研究 2）抗酸化食素材の生体における役割とそのメカニズムに関する研究
		准教授 山口 太一	1）健康の保持増進の為の食事及び運動の方法 2）より良いスポーツパフォーマンス発揮の為のコンディショニング（栄養摂取及びトレーニング）の方法を明らかにする為の研究
		准教授 杉村留美子	生活習慣病の要因と食行動との関連を探り、食事制限を伴う行動変容の難しさを考慮した栄養教育手法を検討する。行動科学理論を用いた食行動変容の促しに関する研究を行う。
		助教 柴田 啓介	1）健康の保持・増進のためのコンディショニング方法（栄養および運動）に関する研究 2）スポーツにおける競技力向上のためのコンディショニング方法（栄養およびトレーニング）に関する研究
	臨床栄養学	教授 若宮 信隆	1）抗酸化機能を有する食品素材の分析・解析研究 2）健康における補体系の役割研究
		教授 石井 智美	食と健康に関する視点から新規食品の開発と脂質代謝を検討。伝統的発酵食品の免疫賦活作用、栄養代謝の検討。世界の発酵乳の栄養、機能性、特性の検討。伝統的食文化の研究。
		教授 萩原 克郎	1）家畜・野生動物における感染症の疫学と予防・治療研究 2）ウシの免疫機能に関する研究 3）腫瘍免疫に関する研究
		教授 岩野 英知	肝臓は栄養中枢としての役割と共に生体内外の化学物質を解毒する機能も有する。栄養が化学物質代謝にどのような影響を与え疾患に関わるのかという視点で研究を行う。
食環境管理	食品微生物管理学	教授 山口 昭弘	1）食品素材・共生菌の機能性に関する研究 2）食品微生物と培養細胞を用いた生体相互作用の解析
		准教授 村松 圭	糖質が微生物におよぼす影響についての研究を主とし、ビフィズス菌の糖質利用、フラクトオリゴ糖資化性菌の検索、微生物による乳糖の資源活用等の研究を行っている。
	食品環境汚染学	※未定	

注）掲載内容は2020年10月現在です。担当教員・研究内容につきましては変更する場合があります。
注）下線のある教員は副指導資格者。出願希望者は事前に研究科長にご相談ください。
*The underlined teacher is a deputy qualified person.
*If you wish to apply, please contact the Dean of the Graduate School in advance.

食品栄養科学専攻 博士課程
(Food and Nutrition Science, Doctoral Course)

専門分野	研究指導分野 (専攻学科目)	指導・担当教員氏名	研究内容
加工特性	食品加工特性学	教授 竹田 保之	発酵乳製品の成分変化、加工特性、生体に及ぼす影響などをその製造に関係する乳酸菌の生態および機能性から詳細に解析し、乳製品や乳酸菌の付加価値向上に取り組む。
		教授 舩津 保浩	低利用水畜産資源の有効活用を目的として異種筋肉タンパク質を複合した新規食品素材を開発し、そのゲル化特性をレオロジー的特質、タンパク質分析、微細構造等から解析する。
	食品物性学	教授 金田 勇	食品をソフトマターとして捉え、主にレオロジー的手法を用いてその物理化学的特性に関する研究を行う。研究対象はハイドロゲルや濃厚コロイド分散体である。
栄養機能	食品栄養機能化学	教授 小野寺秀一	1）糖転移酵素を用いた機能性オリゴ糖の創製に関する研究 2）オリゴ糖関連酵素の遺伝子工学的研究 3）新規機能性食品成分の検索とそれらが生体に及ぼす影響
	食品機能生化学	教授 岩崎 智仁	種々の食品成分が有する機能性について、マウス、ラットならびに畜産動物を用いた骨格筋の可塑性や筋肉タンパク質代謝のシグナル伝達を指標に、分子生物学、生化学、および形態学的手法によって評価解析する。
健康栄養	健康栄養学	教授 大谷 克城	1））食素材の抗酸化機能に関する基礎研究と新規機能性食品の開発研究 2）抗酸化食素材の生体における役割とそのメカニズムに関する研究
		教授 山口 太一	1）健康の保持増進の為の食事及び運動の方法 2）より良いスポーツパフォーマンス発揮の為のコンディショニング（栄養摂取及びトレーニング）の方法を明らかにする為の研究
	臨床栄養学	教授 若宮 信隆	1）抗酸化機能を有する食品素材の分析・解析研究 2）健康における補体系の役割研究
		教授 石井 智美	食と健康に関する視点から新規食品の開発と脂質代謝を検討。伝統的発酵食品の免疫賦活作用、栄養代謝の検討。世界の発酵乳の栄養、機能性、特性の検討。伝統的食文化の研究。
食環境管理	食品微生物管理学	教授 山口 昭弘	1）食品素材・共生菌の機能性に関する研究 2）食品微生物と培養細胞を用いた生体相互作用の解析
	食品環境汚染学	※未定	

注）掲載内容は2020年10月現在です。担当教員・研究内容につきましては変更する場合があります。
注）下線のある教員は副指導資格者。出願希望者は事前に研究科長にご相談ください。
*The underlined teacher is a deputy qualified person.
*If you wish to apply, please contact the Dean of the Graduate School in advance.